

キーワードから考えることばの学習(10)

～読解問題を考える～

言語・学習指導室
葛西ことばのテーブル
三好純太

読解問題とは、
いったい何だろうか？

読解問題は
どのようなものか？

読解問題を
なぜ行うのか？

どのような
読解問題がいいのか？

発達障害の子どものための
読解問題とは？

読解問題の基本スタイル

世界の国①:日本

日本は、わたしたちの国。
まわりを 海に、かこまれた 島の国。
人口は、一億3000万人くらいで、世界で、
8番目に 人が多い。
面積は、38万平方キロメートル、世界で、
50番目の 広さ。
春・夏・秋・冬、四つの季節の美しい国だよ。

1 日本は、まわりを 何に、かこまれていますか？
()

2 日本の 人口は、何人ですか？
()

3 日本の 面積は、世界で 何番目ですか？
()

4 日本には、どんな季節が ありますか？
()

本文

問題部分

問いの文

解答欄

読解問題の特徴

世界の国①:日本

日本は、わたしたちの国。
まわりを 海に、かこまれた 島の国。
人口は、一億3000万人くらいで、世界で、
8番目に 人が多い。
面積は、38万平方キロメートル、世界で、
50番目の 広さ。
春・夏・秋・冬、四つの季節の美しい国だよ。

1 日本は、まわりを 何に、かこまれていますか？
()

2 日本の 人口は、何人ですか？
()

3 日本の 面積は、世界で 何番目ですか？
()

4 日本には、どんな季節が ありますか？
()

本文

本文の読解
* 読解能力が必要

問題部分

問いの文の読解
* 読解能力が必要

解答の記述
* 解答能力が必要

だから

「読解問題」とは、

読解行為／読解能力

解答行為／解答能力

両方に
関わる学習

- * どちらの行為や能力が未熟でも
解決できない課題
- * 学習を通して、それぞれの行為に親しみ、
能力を高めるもの

読解問題は、
いつから、あるのだろうか？

渋谷・金王八幡宮の算額



読解問題は、
世界のどの国にも
あるのだろうか？

?

情報収集中

※お国柄が、かなりある印象

今回のキーワード

共同想起

コトのネットワーク

「私」を育てる

多声性

俳句

読解にはどんなものがあるか

読書物

物語
・評論etc

解説

取扱
説明書etc

告知

お知らせ
広告etc

表示

標識
注釈etc

これらの情報内容を、
題材として読解させて
内容を問うもの = **読解問題**

読書と読解問題

読書と読解問題

★共通点

- 読む行為
 - * 文章を読み、理解する
- 一人で行うことが多い

読書

★特徴

- 自発的に行う(娯楽)
- 読みの量が多い
- ページをめくる
- おおまかに読み進め、筋を追う
- 読む材料は自分で選択

読解問題

★特徴

- 他者の指示として行う(勉強)
- 質問(問題)があり、それに答える
- 解答を出す
- 正解・不正解がある
- 正確な読みが求められる

読書と読解問題

★触れる順序

読書(絵本・読み聞かせも含む)
から読解問題へ

※しかし、発達障害の子どもの場合
読書体験が持ちにくい

※しかし、読解問題の核となる部分は
幼児期から経験している

読解問題の用途・目的

- 国語能力の評価に用いる
文章理解力・文章表現力 など
- 成績査定に用いる
能力の相対的評価
- 受験能力を高める

指導者

子ども

読解問題の用途・目的

●国語能力を育成する？

指導者

問題への取り組みを通して、
文章理解力や表現力を育てる？

子ども

●国語能力を高める？

※この点について明記されたものは見当たらない

たとえば

読解問題には、「問い」がある。
その問いに答えるためには、
本文を正確に読まなければならない



文章を注意深く、正確に読むトレーニング
としての意義がある。

読書とは異なる読みのスタイル

また

一定水準以上の読解問題は、本文に書
かれていないことを、解答として求める。



「問い」により、より深く文章を読み込み、
登場人物や作者の考えや気持ちに気づく、
という意義がある。読みの伴走者としての「問い」

読書の場合は、巻末の「解説」に同じ機能

👉「問う人」とは何か

では、

発達障害の子どもにとっての
読解問題とは何だろうか？

もちろん、通常発達の子どもと、
意義や目的が重なる部分もある。

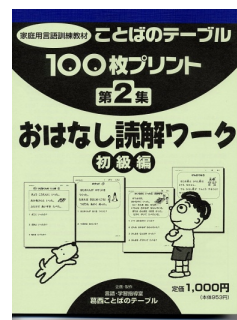
でも..

発達障害の子どもに対応した
役割もあるのではないかと？

発達障害の子どもを対象とした ことばのテーブルの読解問題集

- 「おはなし読解ワーク:初級編」
- 「おはなし読解ワーク:中級編」
- 「おはなし読解ワーク:上級編」
- 「つばさくんのにつき」
- 「続・おはなし読解ワーク:初級編」 他

「おはなし読解ワーク:初級編」



- 全9話のお話で構成
- 幼児～小学校低学年程度の内容
- 解答は、本文からの抜き書きが中心

「おはなし読解ワーク:初級編」の
当初の製作目的



● 読書体験として

● 質問—応答関係能力の育成

? 読解問題としての目的は?

抜き書きによる解答では、
本当に読解できているかどうかは
わからない。

だから
「読解問題」としての意義は乏しい
と、最初は考えていた。

● 読書体験として

発達障害の子どもは、読書体験が難しい

理由は・・・

- * 長い文章が読めない
- * 自発的に本を選べない
- * 読書習慣がない
- * 作品概念ができていない etc・・・

読解問題という形を通して
読書体験を持ってほしい

では、なぜ、読解問題という形なのか?

- ・発達障害の子どもは、読書活動よりも、
学習活動に比較的慣れているから
- ・学習という枠組み(名目)で、一定の取り
組みが期待できるから

読書としての読解ワーク

発達障害の子どもでも
読書的に楽しめるものを提供する

- * 物語文は、ストーリーが連続している
続きものとして楽しめる
- * 日常性の高い題材・語彙を用いている
- * 文章構成のパターン化されている

物語文 おおきな はこ

おおきな はこ ①

のはらの まんなか。
おおきな はこが おちていた。
「なんだろう?」
うさぎが やってきた。

1 なにが おちていた?

2 だれが やってきた?

おおきな はこ ②

しろい おおきな はこ。
どん どん どん。
なかから おおきな おとが して、
うさぎは びっくり。

1 はこは なににいる?

2 うさぎは どうした?

説明文 **かいもの に いった**

かいもの に いった① さかなや

げつようび。
さかなやに いった。
たい さんま あじ ひらめ・・・
いろんな さかなが ならんでいる。
ぼくは さんまを 3びき かった。
はやく やいて たべたいな。

1 いつ さかなやに いった？
2 どんな さかなが ならんでいた？
3 さんまを なんびき かった？
4 さんまを どうやって たべる？

かいもの に いった② やおや

かようび。
やおやに いった。
だいこん ねぎにんじん きゅうり・・・
いろんな やさいが ならんでいる。
ぼくは きゅうりを 5ほん かった。
さらだを つくって たべよう。

1 いつ やおやに いった？
2 どんな やさいが ならんでいた？
3 きゅうりを なんほん かった？
4 きゅうりを どうやって たべる？

パターンの構造の意義
【むかし話・おとぎ話】

三度の繰り返シ → 同じ形の文章が繰り返される

往還形式 → 主人公が、どこかに行き帰る

↓

文が読みやすい

展開について行きやすい

どんなお話が人気がある？

♥ つばさくんのにつき
♥ かいもの に いこう


日常性が高く、子ども自身の知識や経験でイメージしやすいもの

自分を読み込みやすいもの

👉 「自分を読む」

**より文章が長く
高度な内容の読解**

おはなし読解ワーク
中級編



➡

おはなし読解ワーク
上級編【物語文集】



読解ワーク 初級編

パターンの構造・コード進行的展開

↓

読解ワーク 中級編
上級編

登場人物の多様さ

読解ワーク 中級編
上級編

社会的事象の記述

読解ワーク 中級編
上級編

心理の微妙さ・複雑さ

読解ワーク 中級編
上級編

ストーリーの複雑さ etc...

物語の読み応え／知識の習得

● 質問—応答関係能力の育成

日常会話における、5W1Hの問いの理解と応答能力を育てる

発達障害の子どもは多くは、
とくに自閉症の子どもは、
会話における応答が難しい

なぜ読解問題という形式なのか

質問一応答関係を、視覚化する

→ 文字言語を通した
話しことばの習得

なぜ文字言語を通して
話し言葉の習得を図ろうとするのか

たとえば

発達障害の子どもは多くは聞く力が弱い



相手の話しに注意を向けにくい

* 話を聞けない

相手の話しを把握するのが難しい

* 話し言葉の瞬間性

↳ 目で見る可以利用文字

文のパズルの抜き出し

おとうさんと うみに いった。
くるまで いった。
かぜが つよかった。

1 おとうさんと どこに いったの？
(うみ)

おとうさんと うみに いった。

おとうさんと どこに いったの？

① 本文(事柄)と、質問文の、
文の構造を対比する

② 疑問詞の部分を、本文の単語
(事柄)と対応させる

質問文のスタイル

1 おとうさんと どこに いったの？

問いの文(疑問文)を、
会話体の聞きかたにしている

↓
会話でのやりとりに近づけるため

前段階の学習 語句補充問題

おとうさんと うみに いった。
くるまで いった。
かぜが つよかった。

おとうさんと に いった。
 で いった。
 が つよかった。

前段階の学習 語句補充問題

おとうさんと うみに いった。
くるまで いった。

おとうさんと ^{どこ} に いった。
 ^{なに} で いった。

この練習は効果があるか？

パターン・プラクティスとして

疑問詞や助詞、句型に対する
注目や気づきを高める効果

は、あると思われる

しかし・・・多くの場合

この練習だけで、
日常会話での経験の質問に
答えられるようには
ならない

根本的に無理がある

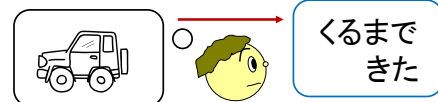
会話で質問に答えられない



さまざまな理由が考えられる

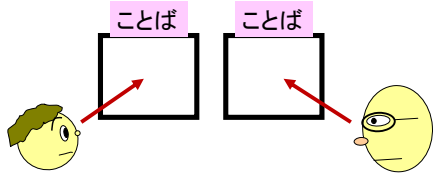
でも、もっとも本質的な問題は・・・

経験が言語化されていない



質問の対象となる経験が、言語化できていなければ、ことばの質問に、ことばで答えることはできない

わたしたちは、
ことばと言う共通のフレームの中で
コミュニケーションしている



個人的な経験や感情を、
みんなと共有することばで表す

だから、まず自分の経験を、
ことばで語れることが必要

それが



質問一応答の基盤となる

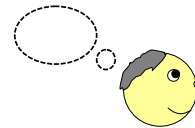
と同時に、それが

読解の基盤となる

共同想起

さあ、それでは

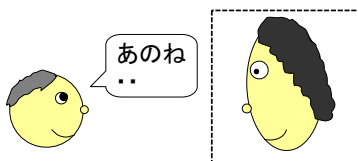
何を
どんなふうに
どれだけ
ことばにしようか?



でも、
子どもは、最初から経験を、
うまく語れるわけではない



聞き手となる大人が支援する



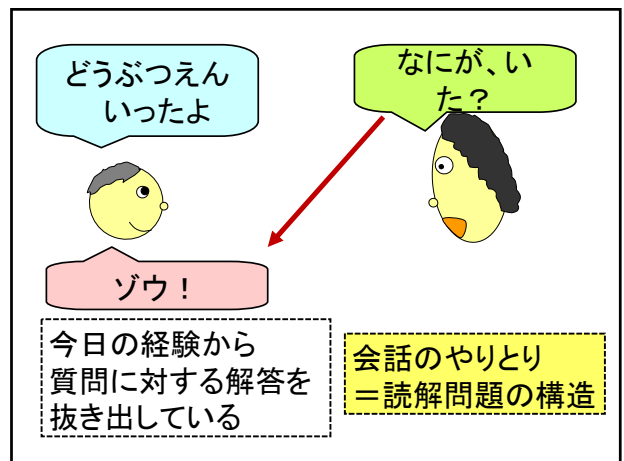
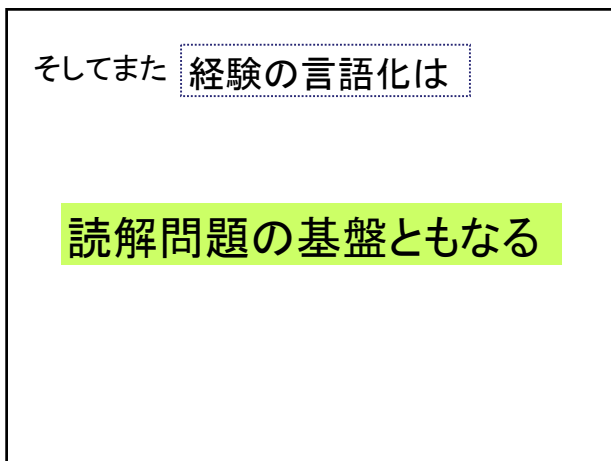
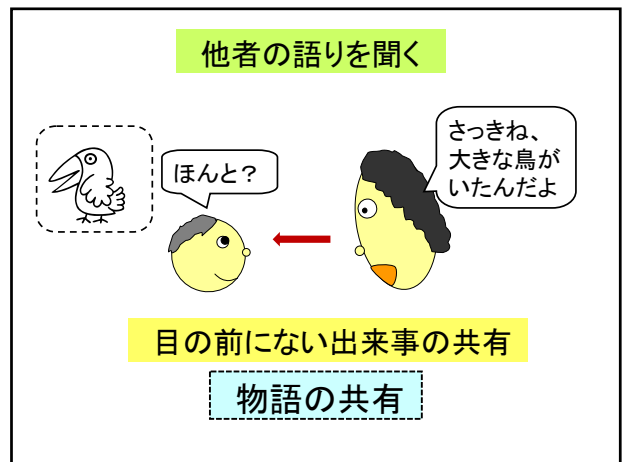
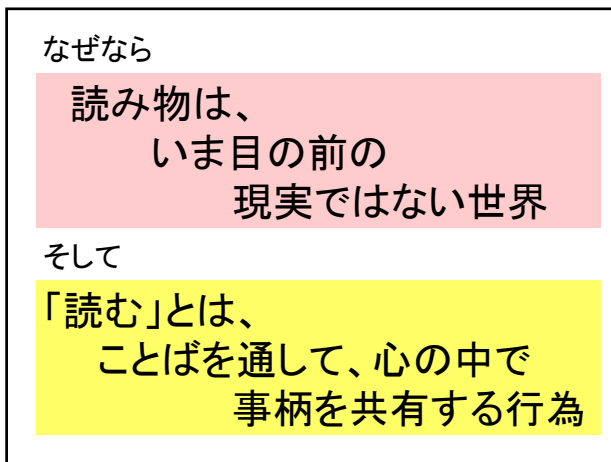
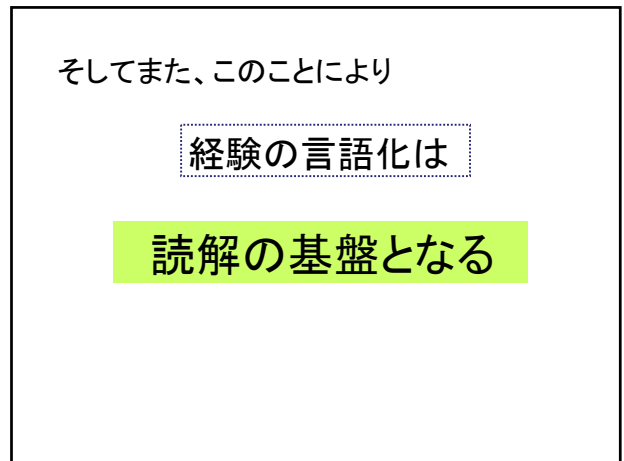
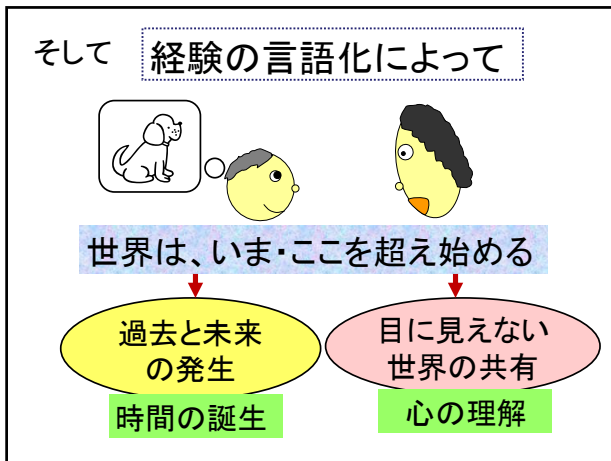
共同想起

●大人と子どもが、過去の経験を、
協力して、思い出す

ワンワン
いた

いたね!
2ひきいたね

大人との対話が、
子どもの語りを支え、豊かにして行く



なにいろだった?

大きな鳥がいたよ

ちやいろ

問い、問われる会話が、
読解問題の基盤となっている

つまり

読解問題ができるためには、

その前提として、経験を語り、また、その問いに答える力を育てなければならない

なによりも、まずは

家族や先生など特定の親しい人と豊富な会話関係を持つことが大切

ことばのテーブルの学習で、まず、すること

その日のできごとの共同想起

9月26日 金曜日はれ
きょうのこと
1じかんめは、算数でした。
たしさんを、やりました。
2じかんめは、国語でした。
かんじを、やりました。

なぜ、

特定の親しい人との会話なのか

家族や先生と、子どもは、お互いについての知識や文脈の共有性が高い

↓

子どもの不完全な表現や、理解を補うことができる

ということで..

読解問題のパズルの抜き書き練習で、会話能力を育てよう、
というのは、発達のプロセスから見れば、根本的に無理がある

ただ..

ただ..

発達障害の子ども、とくに自閉症児は、話し言葉を通して、言語習得を進めて行くことに強い困難を持つ

だから

文字言語を通して、
コミュニケーション能力を育てる、
という学習も必要と思われる

👁️ 「聞く力」が弱い

たとえば

経験の言語化ということでは

子どもにとって共有性の高い生活体験の文を読むことは、コミュニケーションにつながるのではないだろうか

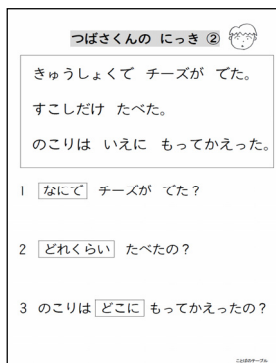
100枚
プリント

「つばさくんのにつき」



- 「つばさ」君という小学校1年生の男の子が主人公
- つばさ君の1年間の日記で本文が構成

「つばさくんのにつき」



とくに、このような日記文を読むことは自分の経験の言語化の手助けになるのではないか。

ふーんなるほど..



あ、ほくも、あるな!

つばさくんのにつき ③

おんがくるとき うたを うたった。
おおきな こえて うたった。
せんせいに ほめられた。

日記は本来、書くものだが、ほかの人の日記を読む経験も大切だと思われる。

とくに経験や知識の共有度の高い、年齢の近い子どもの日記は有意義



小学2年生

学校
給食
運動会
算数
プール
etc



小学2年生

なぜ日記文か

★日記文は1人称の文章

経験した本人の視線で語られている



会話における経験の言語化に近い



こうえんに、
いったよ

そうか、こんなふうに言えばいいのか…

5月16日(月曜日)
3じかんめに、ずこうがあった。
ぼくは、ロケットのえを、かいた。
つばさは、あかくぬった。

出来事の抽出・関連づけ
ストーリーの展開

日記を素材とした読解学習の工夫

自分日記問題

8月5日 水ようび はれ

あさ、ラジオたいそうに、いきました。
5人、きていました。
ごご、たなべくんと、プールに、行きました。

もんだい

1 ラジオたいそうには、何人きていましたか？
()

2 だれと、プールに、いきましたか？
()

自分で作成

「自分日記問題」の目的

- 自分の経験の客観化
 - * 自己認識を高める
- 質問一応答関係能力の育成
 - * 質問文の表現の習得
- 題材一質問関係の理解
 - * 【本文⇔問い】という構造の把握

そういうことか…

日記
質問

しかし…また繰り返しになるが

文字言語から話し言葉を育てる

というのは、
自然な言語習得のプロセスではない

↓

そのリスクも考慮して
おこななければならない

* 文字言語を介した学習のリスク

書き言葉の持つ性質の理解未形成

不自然なスピーチ(アクセント・音声等)の形成

その他

☞「一次のことばと二次のことば」

ともあれ

読解の基盤は、
会話での経験の語り

しかし…

しかし・・・

会話＝読解ではない

会話での共同想起のやりとりが、そのまま、すぐに読解を可能にするわけではない

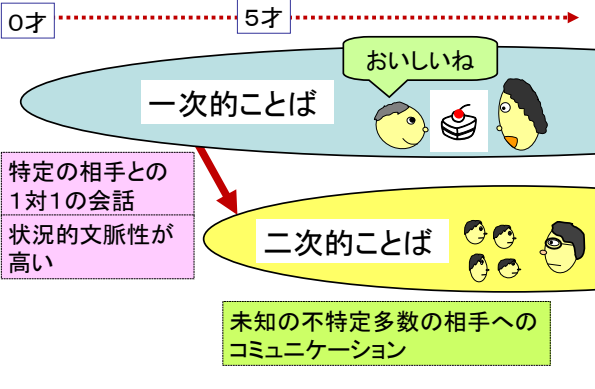
会話と読解は、ことばとしての性質が異なる

会話は、親しい人と1対1で、個人的に行うもの

一次のことば

* 状況依存性が高い

岡本夏木著「ことばと発達」より



子どもは、徐々に二次のことばを獲得して行く

二次のことば

状況に依存せず、ことばの文脈のみによって、伝達されるコミュニケーション

語りの発達

書きことば

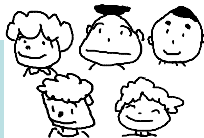
* スピーチ・作文の重要性

語り: 学校でのスピーチ

きょうは、みなさんに、夏休みに行った旅行のことをお話しします。
8月のはじめに、家族と三重県に行きました。最初に、伊勢神宮を見学しました。伊勢神宮に行ったのは始めてだったのですが、とても大きくて驚きました。



不特定多数を対象に客観的に、出来事を語らなければならない。



語り・作文の習得の大切さ

語り・作文の学習

● 日記 ● 口頭作文 ● 10秒映画

読んで解るためには、まず語れて、書ける能力が必要

👉 第8回学習会: 「語り」について

書きことば

書きことば＝文字で書かれたもの

* 文字は、それ自体が、
話し言葉と比べ抽象性の高い記号

子どもは、読解の前に
まず文字を習得する → 二次的
ことばのレディネス

そして

文章は、二次的
ことば

未知の不特定多数を対象として
語られているもの

では、このような本質を持つ読解を
進めて行くためには、何が
必要なのだろうか？

そのひとつは・・・

読解は、状況に頼らず、書か
れていることばの文脈だけで理
解していかなければならない。

会話と比べ、より正確な単語の理
解と、より正確な文法の理解が
必要

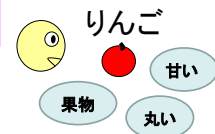
だから読解が成立するためには、

語り手と読み手との間に、
高いことばの共有性がなくては
ならない

たとえば単語なら

「りんご」という単語を
広く、深く、知らなければ

読解はできない



ぎざぎざことば
語彙のネットワーク

しかし、文章を読み解くためには、
語彙のネットワークだけでは
足りない

なぜなら、読み物は、
出来事の連なりで、できている

おとうさんと うみに いった。
くるまで いった。
かぜが つよかった。

コトのネットワーク

おとうさんと うみに いった。

くるまで いった。

かぜが つよかった。

この三つの出来事を、関連を持つ
ひとつながりのストーリーとして
理解しなければならない

だから、まず、

文と文は、関係しあっている

という認識が、読解には不可欠

おとうさんと、海に行った

車で、行った

風が強かった。

人間は本質的に
物事に関係性を
見出そうとする

！発達障害児の関係性洞察の難しさ

でも

おとうさんと うみに いった。
きゅうりが くさってた。
トイレを みがいた。

このような出来事の連なりは、
ストーリーとして理解しにくい

事柄と事柄の間に、常識的な
関連性を見いだせないから

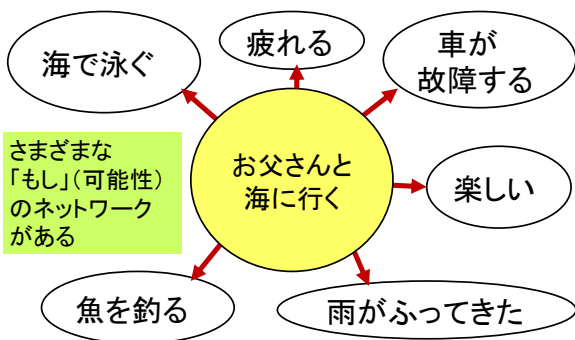
わたしたちは

文と文の関係について
常識的な類推をして
文章を理解している

それを可能にする基盤が

コトのネットワーク

コトのネットワーク



コトのネットワークを持っている

●話しの展開を理解して行ける

●省かれているものを推測できる

* 行間を読む

★日本語の特質
主語がなく文脈で推測

コトのネットワークを持つためには

経験を重ねる

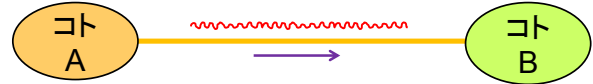
* 生活習慣・お手伝い・遊び



常識(当たり前)を育てる

そしてさらに、

ネットワークの伝わりの良さが



ストーリーの飛躍を支え、理解を導く

伝わりの良さ=閃き=類推力

* 離れた二つのものを連結させる

だから

読解ができるためには

類推する力が必要

であるし、また逆に

読解という行為が

類推力を育てて行く

ということもできる

類推のための課題 もし問題

お皿が2枚、あります。

1. もし、トンカチでたたいたら、

お皿は()

2. もし、もう1枚、もらったら、

お皿は()

3. もし、()たら、


お皿は()

「私」を育てる

会話が

特定の相手との1対1のもの、である
のに対して

読解は

未知の不特定多数を対象に
 語られているもの

だから、たとえば物語を読むとき、
自分も、不特定多数の一人として、この物語に参加しているのだ、という認識がある

ノッポ3号
ノッポ3号は、お手伝いロボットです。家の中の、いろいろな仕事を、どんどん、お手伝いしてくれます。そうじ、せんたく、料理に、かたづけ。何でも、ためめす。さて、これから始まるのは、たかし君という男の子の家で働いている、ノッポ3号のお話です。

社会的共有物

表現の外化 作者

読み物 (作品)

参加

このことには **二つの意義**がある

ひとつは ☝
読解をするためには、
自分から進んで、読み物に関わり
その中に、何かを読み取ろうと
しなければならない

そして、そのような意思が **私が、読むんだ!**

「私」を意識し、
「私」を育てることにつながる

もうひとつは ☝
読み物を、
みんなと共有することの大切さ

私も、**読んだんだ!**
うん!

ノッポ3号、
おもしろかったねー

読み物という抽象的存在を介して
他者につながる

読み物という抽象的存在を介して
他者につながる

↓

社会的存在としての
「私」を育てて行く

3年1組のみんなが読んだものを
私も読んだ!

だから、読解は、
さまざまな点で、
「私」を育てる行為

「私」という自覚 = 自己意識

でも..さらにもうひとつ ☝

読解と、そして読解問題には、
自分づくりの仕組みがある

多声性

読解と読解問題の中には
さまざまな声が響いている

どんな声が響いているか

白いたまごがあった

物語の語り手の声

おい たまごくん

りょうくんの声

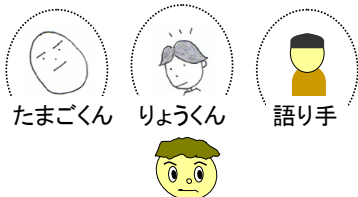
はいよ

たまごくんの声

たまごくん①
白いたまごがあった。
りょうくんが そのたまごに
えんぴつで かおを かいた。
「おい たまごくん」
「はいよ たまごが へんじを
した。
りょうくんは びっくり。」

読み手は、さまざまな人の声を
心に響かせながら
文を読み進めて行く

心に、さまざまな人を存在させている



心の中に、さまざまな人がいる

自分が、それぞれの人になれる

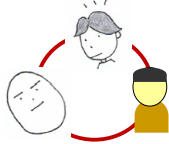
なぜ、それができるのか

他者に対する共感性と、
感覚の共有性があるから

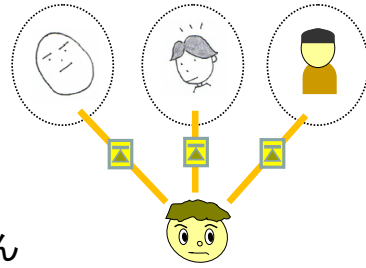
* 私はあなた、あなたは私

そして、大切なことは、

スイッチを切り替えて、次々に
さまざまな人になれる、ということ



なぜ、それができるのだろう？



たぶん

「私」という確かな、セントラルステーションが、
あるから、スイッチを、切り替えて行けるのだ
ろう

あれ？

他の人に自由になれること と

確かな「私」があること の

関係は？



「私」という存在は、
他者との関わりの中にのみある

よりはっきりとした
「私」ができて行く



より複雑で高度な読み物が
読めるようになって行く

読解ができるためには

「私」の確立が必要

であるし、また逆に

読解という行為が

「私」を育てて行く

ということもできる

もうひとつ。☝

さまざまな人を浮かび上げらせながら、
ストーリーをたどっていくためには…

読み方の問題がある



そのような読解のためには、
黙読をしなければならない

● 読みの方法

音読か黙読か

音読の性質

- ◆ 文字を正確に追視し音声化
 - * 音声化プロセスへの負担
→ 内容への注意低下

黙読の性質

- ◆ 自分(読み手)を消す
 - * 物語の中に入り込み、誰にもでもなれる
= 視座の獲得
- ◆ 文字・文を全体的に把握する
 - * 文脈理解が行いやすい
 - * モニター機能が有効
 - * 内容を統合的・直観的に把握

量的に長いもの
内容が複雑なもの


小説・評論
専門書

↓
実際は、かなり適当に
黙読している

- 自分なりに歪めて読みつつ、作者の伝えたい思想や、イメージに少しずつ近づいて行く

適当に読み、偏った解釈ができる
ことの大切さ 自分を読み込む

黙読への移行のために

- ★ 文章の黙読練習は有効? 
- 読字能力の向上
- 「先を読みたい」という動機(意欲)の向上
- スキャニングの練習

● スキャニングの特徴

スキャニング

情報から必要な部分
だけを取り出す

告知・解説書の読み

空間的・同時的探索

↓
実用的な読みの習得

スキミング

文脈を把握し、
大意を取る。筋を追う

読書の読み

直線的・継時的探索

よく、「問い」だけ読んで
本文から答えを探す子どもがいるが

↓
スキミングをしている



黙読が
できている

スキミング練習には、なっている

●スキミングの課題例

夏休みラジオ体操のお知らせ

今年も夏休みのラジオ体操を行います。みなさんの参加をおまちしています。

期間:8月1日から8月20日まで

場所:やわた神社

集合時間:午前6時30分

◎すべて参加した場合は、記念品がもらえます

1 ラジオ体操の場所はどこですか？

2 どんな場合に記念品がもらえますか？

視点形成や共感的理解のために

会話練習 11:ゲームの時間

テーマ ~まで

お母さん	ひろしくん、いつまで ゲームしてるの。もう、ねなさい。
ひろし	えー、もう少し、いいですよ。
お母さん	うーん…じゃあ、8時までよ。
ひろし	えー、そんなあ、9時までで、してよ。
お母さん	だめ！ ぜったい、だめ。
ひろし	おねがい！ おねがいます。

シナリオを読む

会話練習ワーク

- 他者の「ふり」
- ↓
- 身体の共有
- ↓
- 心理の共有

さて、ここまで、「読解」が
話の中心だったが…

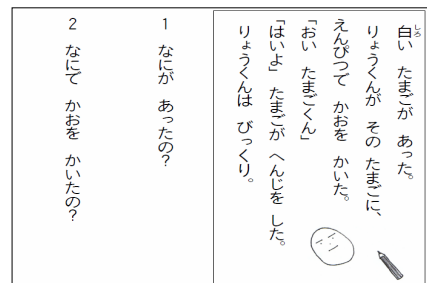
それでは読解問題は？

読解問題における、
「多声性」や「自己認識」は
どうなっているだろうか。

読解問題には、「読解」より、
さらに、たくさんの声が響いている

そうして…

読解問題には、「読解」より
さらに、はっきりとした「自分」が必要

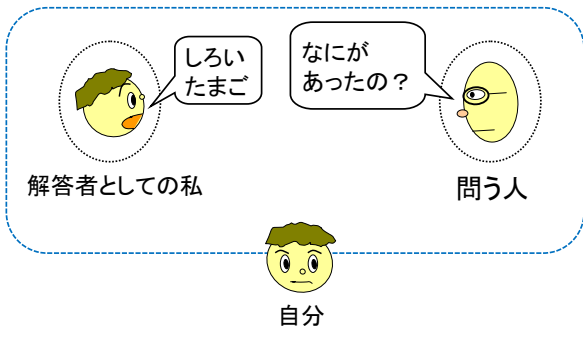


「たまごくん」の読解問題

答える自分の声

質問する人の声

解答者は、「問い」をする人の声を聞き、
そして、自分自身の声で答えて行く



解答という行為

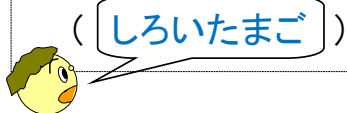


★自分の判断を述べる

「私」は、文章をこう読み取った、
という表明

👂「会話の問いに答える」

1 なにが、あつたの？



「しろいたまご」という解答は、
本文の抜き書きではなく、
自分の声(判断)でなくてはならない

【自分の判断になっていない解答】

本文

大きな音におどろいて、キューは、
パタパタと飛び立ったのです

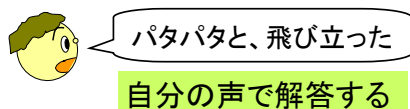
1 大きな音におどろいて、キューは
どうしましたか？

×(パタパタと飛び立ったのです)

↑
語り手の言葉で答えている

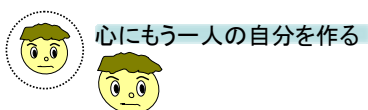
自己認識の未熟さ／多声性の感性の乏しさ

自分はこう読み取った！



自分の声で解答する

読解の解答は、
「自分」の明確な意識化が求められる



さて、最後に残った声は・・・

「問う」人

「問う」人とは何か

何があった？



多くの読解問題の場合、問いは、
質問ではなく諮問になっている

諮問: 相手が解っているか問い糺すこと

問う人は試験官=〇×をつける人

だから、読解問題は楽しくない

問う人は、嫌な人

* 第一、問いは、文として難しく
読みにくい

読解問題はやりたくない

でも本当にみんな嫌い？

ちょっとここで、
読解問題が楽しいかどうか
について考えてみよう

読解問題は楽しいか

楽しい



つまらない



つまらない



- 読む本文に興味を持ってない
 - * 自分にとって関心のない内容
- 問題解決の動機を持ってない
 - * 読めばわかる(読むだけでいい)
⇒ 解答を書くのがめんどくさい
- 本文・問いの読解が難しい

子どもの能力や興味と、問題とのズレ

楽しい



- 読む本文に興味がある
- 文を読み取ることが楽しい

* 単語から文への読解に
進みつつある段階の子ども

わかった！

ほしが…
音読段階

答えもわかった！

問題解決の喜び
能力に形を与える／
ドアを叩く

1 なにがひかっているの？

きりきり
ほしがひかっている。
ゆうがたのそらに
ほしがひかっている。

読解問題を
楽しく行うためには…

↓

子どもの興味や能力段階と合った
問題提示・問題作成が必要

ここで「問い」の問題にもどる

読解嫌いの原因のひとつが「問い」
であるとすれば…

↓

「問い」について、もっとよく工夫して、
読解問題を作る必要がある

どんな「問い」なら読解問題を楽しく
また有意義にできるだろうか？

「問い」の工夫①

問いかける人の眼差しや声を感じさせる

はじめくんが ろけつとをつくった。
なまえは はじめ1ごう。
つばさも あかくぬった。

なにをつくったの？
()

「問い」の工夫②

諮問ではなく、質問をする

読んだものの、感想や
評価・批評を求めろ → 子どもに、高度な
読解力や判断能力がないと難しい

出てきた人で
だれが好きだった？

どこが面白かった？

なんで～したと思う？

へんな話：自転車の練習

全部で15回転んで、7回、痛くて泣きました。
でも、とうとう、その日の夕方に、イヌは自転車に乗
れるようになったのです。光っていた自転車は、泥で
よごれて、すっかり汚くなってしまいました。それ
でも、イヌは、夕日の中で、いつまでも、自転車を乗
り回していました。

問い イヌはどうして、いつまでも、自転車を乗り
回していたのだと思いますか。

「問う人」が

面白い映画を観たり、小説を読んだりしたあと、そのことについてカフェでおしゃべりし合うような存在になってくれることが理想...

それは、なかなか難しい。でも、
読みの伴走者としての
「問い」を、工夫して行きたい

さいごに..

読解する力を育てるために
大切と考えている活動がある

俳句

俳句

5・7・5のリズムで
作られる短詩

柿食えば
鐘がなるなり
法隆寺

古池や
蛙とびこむ
水の音

俳句の決まり

- 5・7・5のリズム
- 季語の設置
- 切れ字など

荒海や
佐渡に横たふ
天の川

子どもの作った俳句

うみにいく
およげないけど
たのしいよ

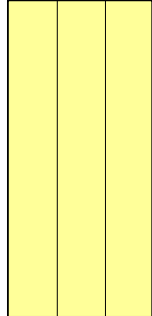
池にカモ
草地のたまご
うまれたよ

月は空
夜に出るんだ
きれいだな

山見れば
山を見るほど
高いんだ

ことばのテーブルでの俳句学習

月か…
何かなあ…



「つき」で俳句を作ろう

お題の設定

俳句作りの心のプロセス

夜…
黄色…
きれい…



つきは…よる
そらに…
でるんだ…

心の中のイメージを、
言葉にして、形を与える

表現したいことを選び、
世界から切り取る

心の中のイメージを、
言葉にして、形を与える



イメージ化能力を育てる

【イメージ】

* 目の前にないことを再現すること

→ 読解能力につながるもの

他者の表現したものを
理解し楽しむためにも
イメージ化能力が重要

思い浮かべる力



広い広い野原がありました。
その野原のまん中に、
高い一本の木が立っていました。

表現したいことを選び、
世界から切り取る

夜…
黄色…
きれい…
いっぱい
あるけど…
これにす
る！



志向性を育てる

【志向性】

* 世界を意識的に認識する

読解能力につながるもの

読解する内容も
さまざまな事柄の中から
あるまとまりを切り出したもの

文の連なりの中に、
凝縮した、ひとつの
世界を、見出す

花が咲いていた。
赤い花だった。
風にゆれていた。

こんなことが
あったんだ



そしてまた・・・

志向性は、自己認識に関わってくる

せみ鳴くや
つくつく赤い
風車

赤いのお・・・



小林一茶



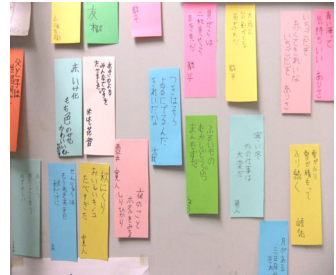
意識的に何かを
実感するには
明確な自分が必要

俳句は、読解の能力を高め
また自己認識を高める

あ、ぼくの
俳句だ



できたら短冊に
書いて貼ろう！



さあ、どんな読解問題を作ろうか

読んで楽しい内容のもの

子供の知識や経験でイメージし易いもの

挿絵が多くて楽しいもの

文章の長さや、語彙の調整

物語・説明・告知・・・の種類の検討

語りかけ(1人称・3人称・etc)の工夫

「問い」の内容・問いかけ文の工夫

挿絵の大切さ



小さな挿絵でも
子どもは注目する

絵は読みを深める

【今回お話ししたかったこと】

- 読書体験として読解問題を活用しよう
- 読解問題で質問一応答を学習しよう
- 読解の基盤は会話での経験の語り
- 読んで解るために語り・作文の能力が大切
- 経験の言語化のために日記文を読もう
- 読解のためにコトのネットワークを作ろう
- 音読から黙読へと読みを進めよう
- 読解は「私」を育てる行為
- 読解と読解問題の中の「声」を聞こう
- 読みの伴走者としての「問い」を工夫しよう
- 俳句は読解を育て、「私」を作る活動

【参考・引用図書】★

- 「ことばと発達」 岩波新書
- 「子どもとことば」 岩波新書
- 「こんなに違う世界の国語教科書」メディアファクトリー新書
- 「心を生み出す脳のシステム」 NHKブックス
- 「俳句脳」 岩波新書
- 「教育から江戸を考える」 日本放送出版協会
- 「言語発達心理学～読む書く話すの発達～」 放送大学教材
- 「国語入試の近現代史」 講談社新書メチエ
- 「読む心・書く心」 北大路書房
- 『ヒロシです1・2』扶桑社

★【参考・引用図書&DVD】 ※2003年第3回学習会

- 「ファンタジーと現実」 金子書房
- 「言語発達心理学」 放送大学教材
- 「映画を見る眼」 日本放送出版協会
- 「視点」「比喩と理解」 東京大学出版会
- 「美学入門」 朝日選書
- 「問題解決の心理学」 中公新書
- 「認知心理学者 教育を語る」 北大路書房
- 「ことばの発達と障害」 大修館書店
- 「知的好奇心」「人はいかに学ぶか」 中公新書
- 「ニッポン近代化遺産」 NHK放送出版協会
- 「マンガはなぜ面白いのか」 NHKライブラリー
- 『飛べフェニックス』 20世紀FOX